

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	阪急石橋駅周辺地区都市再生整備計画事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	1	1	担当部署名	まちづくり・交通課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち				
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備				
	項目	項目1石橋駅周辺地区の整備				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和3年度
事業内容	(仮称)石橋地域拠点施設(図書館、地域交流センターなど)の整備、石橋駅周辺路地の美化、情報板の整備などを位置づけた計画を推進する。
めざす姿(目標)	阪急石橋駅周辺において、市民・学生・来訪者が多く行き交う交流とにぎわいを創出するとともに、官民が連携したまちづくりを推進する。
事業の対象(誰を、何を)	阪急石橋阪大前駅周辺
事業の手段・方法(どのように)	都市再生整備計画を策定し、国庫補助金を活用する。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市都市計画マスタープラン ・阪急石橋駅周辺地区都市再生整備計画 ・池田市立地適正化計画

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円)A	0	0	0		石橋駅乗降客数	25,654人/年	25,441人/年	27,500人/年
主な内訳					石橋駅空き店舗率の抑制	5.5%	-	6.3%
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	都市再生整備計画に基づき、順調に事業を進めている。		
	地方債							
	その他( )				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担B				☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
一般財源C				・上記「有効性・効率性」選択の理由	都市再生整備計画に基づき、事業を進めているところであり、改善の余地はない。			
一般財源比率 C÷A								
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、厚生労働省が「新しい生活様式」を公表する等、まちづくりをとりまく環境は今後大きく変化する可能性がある。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>地域活性化に向けて駅周辺等のにぎわい創出、回遊性を高めていくことが重要であるが、感染症リスクへの対応から、安全安心で居心地の良いまちなかを形成するため、公共空間の拡大やその活用方法等を再検討していく必要がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 現在進めている地域拠点づくり等の事業を推進し、駅周辺のにぎわい創出等を図りつつ、安全安心で居心地の良いまちなかを形成するため、国土交通省が推奨する「まちなかウォークアブル推進プログラム」の考えに基づき、公共空間の拡大につながる民地の開放や官民連携による公共空間の利活用等についての具体的な計画を策定することが重要である。</p>

## 行政評価シート(令和元年度実施事業)

### 1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	(仮称)石橋地域拠点施設整備事業				財務会計上の事業名	石橋地域拠点施設整備事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	1	2	担当部署名	行財政改革推進課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち				
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備				
	項目	項目1石橋駅周辺地区の整備				

### 2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和3年度
事業内容	現石橋駅前会館に図書館や集会施設などの機能を複合させ、幅広い世代や外国人をはじめとする多様な人々の交流の場として、(仮称)石橋地域拠点施設を整備する。
めざす姿(目標)	令和4年度より(仮称)石橋地域拠点施設(図書館、地域交流センターなど)を供用開始する。
事業の対象(誰を、何を)	共同利用施設池田市立石橋駅前会館及び石橋駅西自転車駐車場
事業の手段・方法(どのように)	両施設を解体し、図書館や集会施設などの機能をもつ複合施設を新たに建築する。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>池田市公共施設等総合管理計画</li> <li>池田市個別施設計画</li> <li>阪急石橋駅周辺地区都市再生整備計画</li> <li>池田市立地適正化計画</li> </ul>

### 3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	-	57,970	76,500	建設工事	—	—	基本・実施設計完了	完了
主な内訳		57,970						
設計委託料			2,500					
監理委託料			74,000					
請負費								
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金		46,546	上記「達成状況」選択の理由	予定通り基本設計見直し及び実施設計を完了することができたため。			
	地方債							
	その他( )			☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
	うち受益者負担 B			☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)			
	一般財源 C		11,424	7,700	上記「有効性・効率性」選択の理由	新施設の建設に向け、着実に進行したため。		
一般財源比率 C÷A		19.7%	10.1%					
受益者負担率 B÷A								

### 4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

### 5 事業の現状と今後の見通し

<p style="text-align: center;">本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大</p>	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
今後の工事の工期に影響がでる可能性がある。	<p style="text-align: center;">現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 当初計画通り令和2年度から3年度に解体工事、新築工事を行い、令和4年度4月に供用開始できるよう事業を推進する。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	まちなみ保存補助事業				財務会計上の事業名	まちなみ保存補助事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	2	1	担当部署名	まちづくり・交通課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち				
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備				
	項目	項目2池田駅周辺地区の整備				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和元年度
事業内容	まちなみ保存区域内に存する建築物の修理を行う者に対して、補助金を交付する。
めざす姿(目標)	まちなみ保存により、にぎわいを創出する。
事業の対象(誰を、何を)	まちなみ保存区域内の建造物所有者
事業の手段・方法(どのように)	まちなみ保存区域内に存在する建造物の新築・修理を行う所有者に対して補助金を交付する。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	208	0	0	補助件数		1件	0件	
主な内訳								
補助金	208	0	0					
☆成果の達成状況					B.順調に推移していない			
財源	国・府支出金			・上記「達成状況」選択の理由	一部のみまちなみ形成に留まっているため。			
	地方債							
	その他( )							
	うち受益者負担 B							
一般財源 C	208	0	0	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	C.有効的でない(抜本的な見直しが必要)			
一般財源比率 C÷A	100.0%			☆事業は効率的に実施できているか	C.効率的でない(抜本的な見直しが必要)			
受益者負担率 B÷A				・上記「有効性・効率性」選択の理由	まちなみ形成を行うためには、市全体の景観、まちなみを検討していくうえで制度の内容を見直す必要があるため。			

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>美しいまちなみはまちの魅力の一つであるが、補助制度の活用実績が少なく、一部のまちなみ形成に留まっている。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>景観行政団体への移行にあわせて、制度の見直しを行っていく必要がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>その他</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 次年度以降、都市景観形成事業にあわせて、制度の見直しを行っていく。 令和2年度は、補助制度を休止し、景観行政団体への移行にあわせて、制度の抜本的な見直しを行う。</p>

## 行政評価シート(令和元年度実施事業)

### 1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	阪急池田駅周辺地区都市再生整備計画事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	2	2	担当部署名	まちづくり・交通課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち				
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備				
	項目	項目2池田駅周辺地区の整備				

### 2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和3年度
事業内容	(仮称)満寿美公園の整備、さくら通り緑化施設の再整備、栄本町ポケットパークの再整備、(仮称)池田地域交流センターの整備、情報板の整備などを位置づけた計画を推進する。
めざす姿(目標)	交流拠点や空間整備を行い、観光客の回遊性を高め、まちの活性化及びにぎわいを創出する。
事業の対象(誰を、何を)	阪急池田駅周辺
事業の手段・方法(どのように)	都市再生整備計画を策定し、国庫補助金を活用する。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	・池田市都市計画マスタープラン ・阪急池田駅周辺地区都市再生整備計画 ・池田市立地適正化計画

### 3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)
	(決算)	(決算)	(予算)	
事業費(千円)A	0	0	0	
主な内訳				
財源	国・府支出金			
	地方債			
	その他( )			
	うち受益者負担B			
	一般財源C			
一般財源比率 C÷A				
受益者負担率 B÷A				

### 4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
池田駅乗降客数	27,890人/年	27,064人/年	29,300人/年
池田駅空き店舗率の抑制	9.0%	-	9.5%
駅周辺観光施設来場者数	1,600,000人/年	1,745,403人/年	1,700,000人/年
☆成果の達成状況	A.順調に推移している		
・上記「達成状況」選択の理由	都市再生整備計画に基づき、順調に事業を進めている。		
☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
・上記「有効性・効率性」選択の理由	都市再生整備計画に基づき、事業を進めているところであり、改善の余地はない。		

### 5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
新型コロナウイルス感染症により、厚生労働省が「新しい生活様式」を公表する等、まちづくりをとりまく環境は今後大きく変化する可能性がある。	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
地域活性化に向けて駅周辺等のにぎわい創出、回遊性を高めていくことが重要であるが、感染症リスクへの対応から、安全安心で居心地の良いまちなかを形成するため、公共空間の拡大やその活用方法等を再検討していく必要がある。	<p style="text-align: center;">拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 現在進めている地域拠点づくり等の事業を推進し、駅周辺のにぎわい創出等を図りつつ、安全安心で居心地の良いまちなかを形成するため、国土交通省が推奨する「まちなかウォークラブル推進プログラム」の考えに基づき、公共空間の拡大につながる民地の開放や官民連携による公共空間の利活用等についての具体的な計画を策定することが重要である。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	(仮称)池田地域交流センター整備事業			財務会計上の事業名	資産活用事務事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	2	3	担当部署名 行財政改革推進課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち			
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備			
	項目	項目2池田駅周辺地区の整備			

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和3年度
事業内容	現池田会館と栄本町コミュニティセンターを統合し、新たに(仮称)池田地域交流センターとして整備する。
めざす姿(目標)	令和4年度中に(仮称)池田地域交流センターを供用開始する。
事業の対象(誰を、何を)	共同利用施設池田市立池田会館
事業の手段・方法(どのように)	上記施設を解体し、栄本町のコミュニティセンターの機能を統合した、新たな施設を建築する。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	・池田市公共施設等総合管理計画 ・池田市個別施設計画 ・阪急池田駅周辺地区都市再生整備計画 ・池田市立地適正化計画

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値 (活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時 (H30年度)	実績 (R元年度)	目標値 (R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	-	18,370	55,000	建設工事	-	-	基本設計完了	完了
主な内訳		18,370						
設計委託料			55,000					
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金		3,178	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか ☆事業は効率的に実施できているか	A.有効的である(改善の余地がない) A.効率的である(改善の余地がない)	予定通り新たな施設の基本設計を完了することができたため。 新施設の建設に向け、着実に進行したため。		
	地方債		49,500					
	その他( )							
	うち受益者負担 B							
一般財源 C		15,192	5,500	☆上記「有効性・効率性」選択の理由				
一般財源比率 C÷A		82.7%	10.0%					
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等) 新型コロナウイルス感染症の拡大	
目標達成に向けた課題 今後の工事の工期に影響がでる可能性がある。	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性 現状維持 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 当初計画通り令和2年度に解体工事、令和3年度に新築工事を行い、令和4年度中に供用開始できるよう事業を推進する。

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	地域整備促進支援事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	1	1	3	1	担当部署名	まちづくり・交通課
総合計画の体系	章	第1章にぎわいと活力あふれるまち				
	節(施策)	第1節駅周辺を中心とした市街地の整備				
	項目	項目3郊外市街地の整備				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	地域の住環境を地域住民自らが守り育てるための取組を支援するとともに、住民主体のまちづくり活動の普及啓発を行う。
めざす姿(目標)	地域住民が主体となったまちづくり活動を推進する。
事業の対象(誰を、何を)	地域住民
事業の手段・方法(どのように)	地域の要望に応じ、勉強会等を開催し、地域のまちづくりに向けた手法をともに検討する
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市都市計画マスタープラン

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	0	0	0		まちづくり活動団体数	3団体	3団体	4団体
主な内訳				☆成果の達成状況				
財源	国・府支出金			・上記「達成状況」選択の理由				B.順調に推移していない
	地方債							まちづくりに関し地域が抱える課題等を把握できていない。
	その他( )			☆目標達成のための有効な事業内容となっているか				B.改善の余地がある
	うち受益者負担 B			☆事業は効率的に実施できているか				B.改善の余地がある
	一般財源 C			・上記「有効性・効率性」選択の理由				まちづくりに関し地域が抱える課題等を把握し、また、まちづくりに対する機運を高めるための意識啓発等ができる体制を整えていく必要がある。
一般財源比率 C÷A								
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>良好な住環境の保全・改善、空き家・空き店舗の活用、交通安全対策、バリアフリー等、まちづくりに関するニーズは多様化しており、市民と行政のパートナーシップによるまちづくり活動、地域活動が重要。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>多種多様なまちづくり活動を推進していくうえで、市職員のスキルアップ、体制づくりも必要であるが、各地域におけるまちづくりの担い手の発掘、育成、支援等が必要であり、市民が気軽に相談、参加できるような環境づくりが求められる。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 市職員のスキルアップのため、研修等へ積極的に参加するとともに、市民のまちづくりの意識を高めるため、まちづくりの専門家によるセミナー開催等の普及啓発活動を推進する。</p>